

特色

小児外科とは主に外科的治療を必要とする小児を対象としています。こどものからだは大人のように完成したものではなく、身体のあらゆる臓器の機能や調節機構が未熟であると同時に、精神的・心理的にも発育の途上にあります。また成人領域とは病態の異なる疾患が多く、治療方法が異なることも特徴です。このような小児の特性や、疾患の特徴についての十分な知識と経験を持って診療にあたることを目的とした科が小児外科です。

小児外科は専門性の高い科の一つで、現在、香川県には3つの施設(当院、香川大学附属病院、四国こどもとおとなの医療センター)にしかありません。特に、当院は香川県において小児人口の最も多い高松市の中心に位置し、地域の小児医療に対する重要な役割を担っています。

対象疾患

日本では一般に0歳から15歳(中学校卒業)までを小児医療の範疇としており、治療の対象とする疾患は全身を通して多岐に渡り、脳・心臓・骨・眼以外のほとんどの臓器を扱います。

部位・項目	治療する主な疾患
顔面・頸部	耳前瘻孔、副耳、正中頸嚢胞、側頸瘻、梨状窩瘻
胸部・呼吸器	横隔膜ヘルニア、嚢胞性肺疾患、肺分画症、先天性気管狭窄症、気管・気管支軟化症、漏斗胸、異物誤嚥
消化管	食道閉鎖症、食道狭窄症、胃食道逆流症、食道アカラシア、異物誤飲、肥厚性幽門狭窄症、胃軸捻転、消化管穿孔、腸閉鎖症、腸回転異常症、腸重積症、メッケル憩室、腸管重複症、腸閉塞、ヒルシュスプルング病、急性虫垂炎、壊死性腸炎、胎便性腹膜炎、腸管ポリープ、直腸肛門奇形、肛門周囲膿瘍、乳児痔瘻、裂肛、痔核
肝・胆・膵・脾	胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、胆石、膵炎、膵嚢胞、遊走脾捻転
腹壁・臍	臍ヘルニア、白線ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、臍肉芽腫、尿膜管遺残、卵黄腸管遺残
鼠径部・陰嚢	鼠径ヘルニア、陰嚢水腫・精索水腫・ヌック水腫
泌尿生殖器	膀胱尿管逆流症、水腎・水尿管症、尿道下裂、停留精巣、精巣捻転症、包茎
体表	皮膚・皮下腫瘍、リンパ管腫、リンパ節腫脹
腫瘍	神経芽腫、ウイルムス腫瘍、肝腫瘍、胚細胞腫瘍、横紋筋肉腫
外傷	肝損傷、膵損傷、脾損傷、腎損傷、消化管損傷

血液内	1
腎臓内	2
内分泌	3
消化内	4
循環器	5
神経内	6
呼吸内	7
小児	8
小児外	9
消化外	10
胸乳外	11
脳外	12
心臓外	13
整形外	14
リハ	15
皮膚	16
泌尿器	17
腎外	18
産婦人	19
眼科	20
耳鼻咽	21
化学療	22
放診断	23
放治療	24
放核医	25
麻酔	26
歯科	27
救急	28
心不全	29
健診	30
病理	31
薬剤	32
検査	33
超音波	34
臨床工	35
看護	36
血管治療	37
消化器	38
呼吸器	39
生殖医療	40
腎臓病	41
女性外来	42
緩和	43
下肢	44
呼吸ケア	45
NST	46
認知症	47
褥瘡	48

診療実績

2016年10月1日より小児外科を開設し診療を行っております。2019年9月30日までのちょうど3年間で小児外科手術症例数は237件、緊急手術症例数は63件となっております。

診療内約:2016年10月1日~2019年9月30日

部位	診断病名	術式	件数
体表	鼠径ヘルニア・水腫	鼠径ヘルニア根治術	87
	臍ヘルニア	臍ヘルニア根治術	9
	白線ヘルニア	ヘルニア閉鎖術	1
	正中頸嚢胞	Sistrunk手術	2
	鰓原性遺残物	摘出術	2
	皮膚・皮下腫瘍	摘出術	4
	尿管遺残症	尿管遺残摘出術	4
	臍腸管遺残症	臍腸管遺残摘出術	1
	リンパ管腫	腹腔内ドレナージ OK-432硬化療法	1 1
消化器	急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	39
		開腹虫垂切除術	1
		虫垂切除後腹腔内膿瘍洗浄ドレナージ	1
	慢性虫垂炎	単孔式虫垂切除術	9
	腸重積	非観血的手術(空気整復術)	6
		観血的手術(開腹)	1
	腸回転異常症	Ladd手術	2
	メッケル憩室関連腸閉塞	メッケル憩室切除術	1
	肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術	1
	胆道拡張症	開腹ドレナージ	1
		根治術(胆管空腸吻合)	1
	消化管異物	異物摘出術	4
	経口摂取困難	胃瘻造設術	2
直腸ポリープ	ポリープ切除術	1	
重症便秘症	便摘出	1	
呼吸器	先天性肺気道奇形(CPAM)	肺切除術	1
泌尿生殖器	停留精巣・移動性精巣	精巣固定術	21
		Fowler-Stephens手術	1
	萎縮精巣	精巣摘出術	2
	包茎	Welsh手術	3
		Cohen手術	5
	膀胱尿管逆流症	術後新尿管口狭窄 腎瘻造設術	1
		術後新尿管口狭窄 再開放手術	1
腎盂尿管移行部狭窄症	腎盂形成術	2	
検査・処置	リンパ節腫脹	リンパ節生検	14
	筋ジストロフィー	筋生検	1
	中心静脈カテーテル留置	カットダウン挿入術	2
小児外科手術症例総数			237
緊急手術症例			63

地域の先生方へ

小児外科治療は、小児特有の生理状態や未熟な臓器機能に配慮した周術期管理、手術時期の年齢の考慮、術後の長い成長・発育に耐えられる手術法、より緻密で正確な手術手技が求められます。手術治療が必要と思われる患児は当院にご紹介ください。

日本小児外科学会の云う小児外科専門医＝子どもを安心して預けることができる外科医として、最善を尽くします。